

物件目録 1－1（イ号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６３」とする容器に使用されている蓋体

（２）イ号蓋体の構成

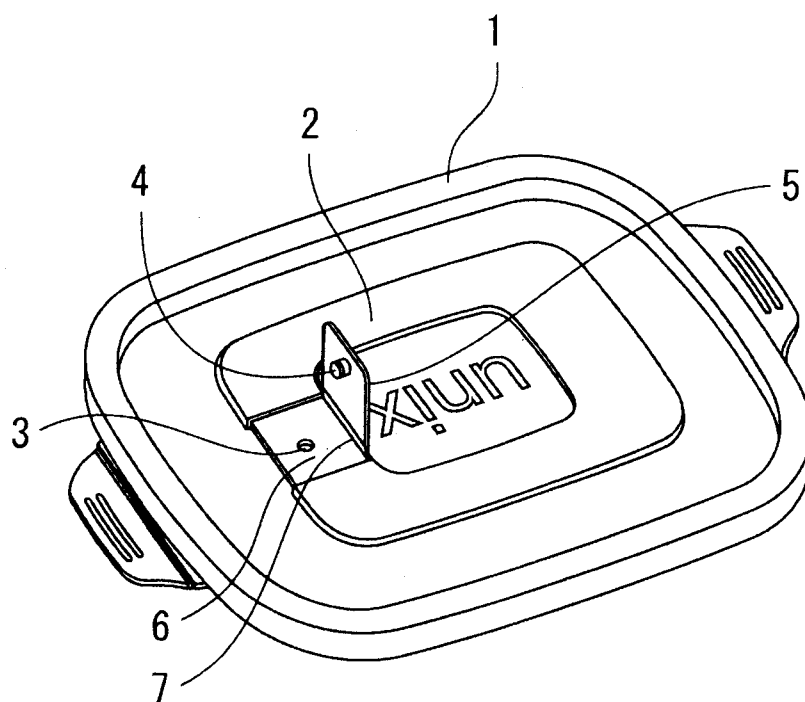
- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略四角形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）イ号蓋体の寸法

縦約 9 5 mm、横約 1 5 5 mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略長方形である。

（４）図面の説明

- ・ 図 1 はイ号蓋体の斜視図である。
- ・ 図 2 はイ号蓋体の平面図である。
- ・ 図 3 はイ号蓋体の断面図である。
- ・ 図 4 はイ号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 5 はイ号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。



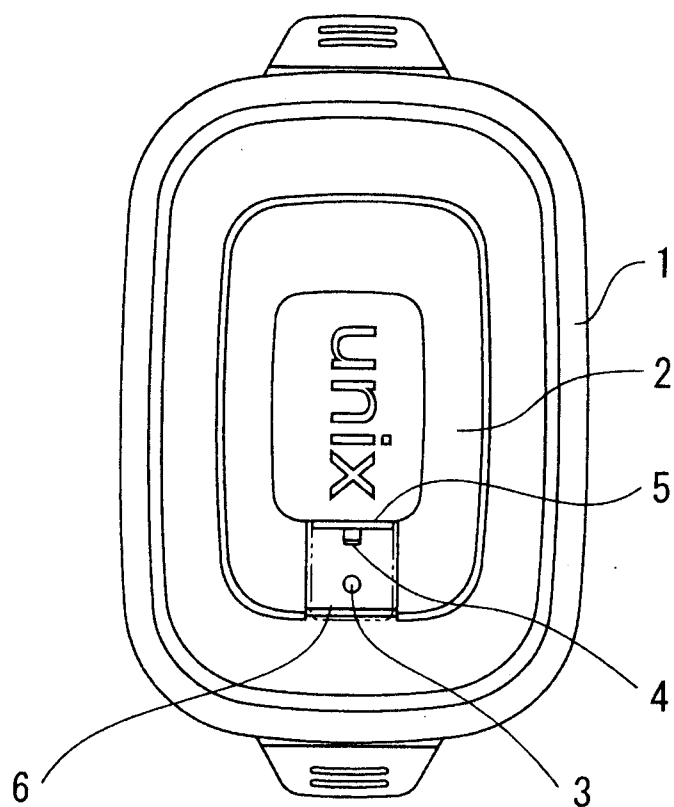


図3

イ号 蓋体

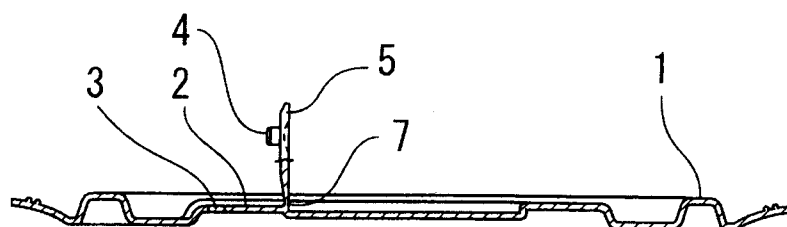
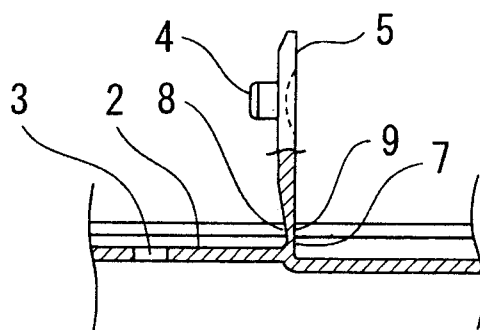
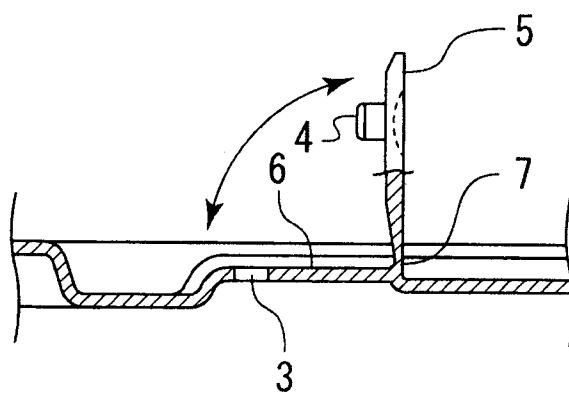


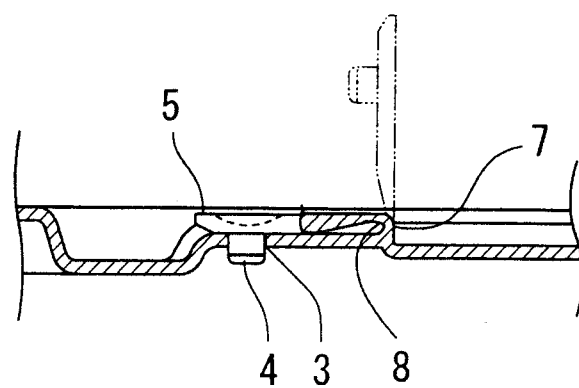
図4

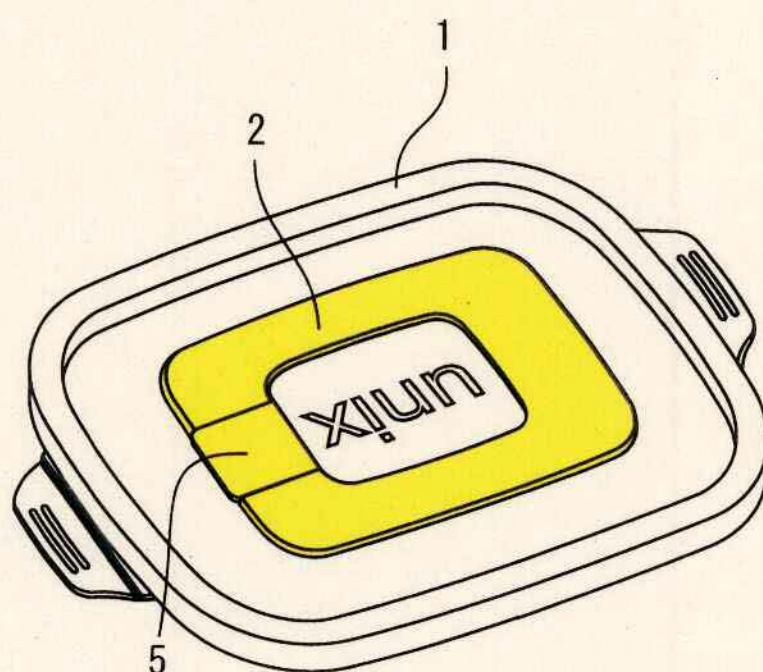


(a)



(b)





物件目録 1 - 2 (イ号容器)

(1) 被告製品に係る品番を「4 2 6 3」とする容器

(2) イ号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部(20)と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略四角形の蓋体(10)からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部(1)は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域(2)を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴(3)と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部(4)を備えるフラップ部(5)と、当該フラップ部を収容する凹領域(6)が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部(7)を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝(8)が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面(9)は平坦な面をなす
- i. 容器

(3) イ号容器の寸法・容量

蓋体は、縦約95mm、横約155mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。容量は280mlである。

(4) 図面の説明

- ・図1はイ号容器の斜視図である。
- ・図2はイ号容器の平面図である。
- ・図3はイ号容器の断面図である。
- ・図4はイ号容器の蓋体の断面図である。
- ・図5はイ号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図6はイ号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

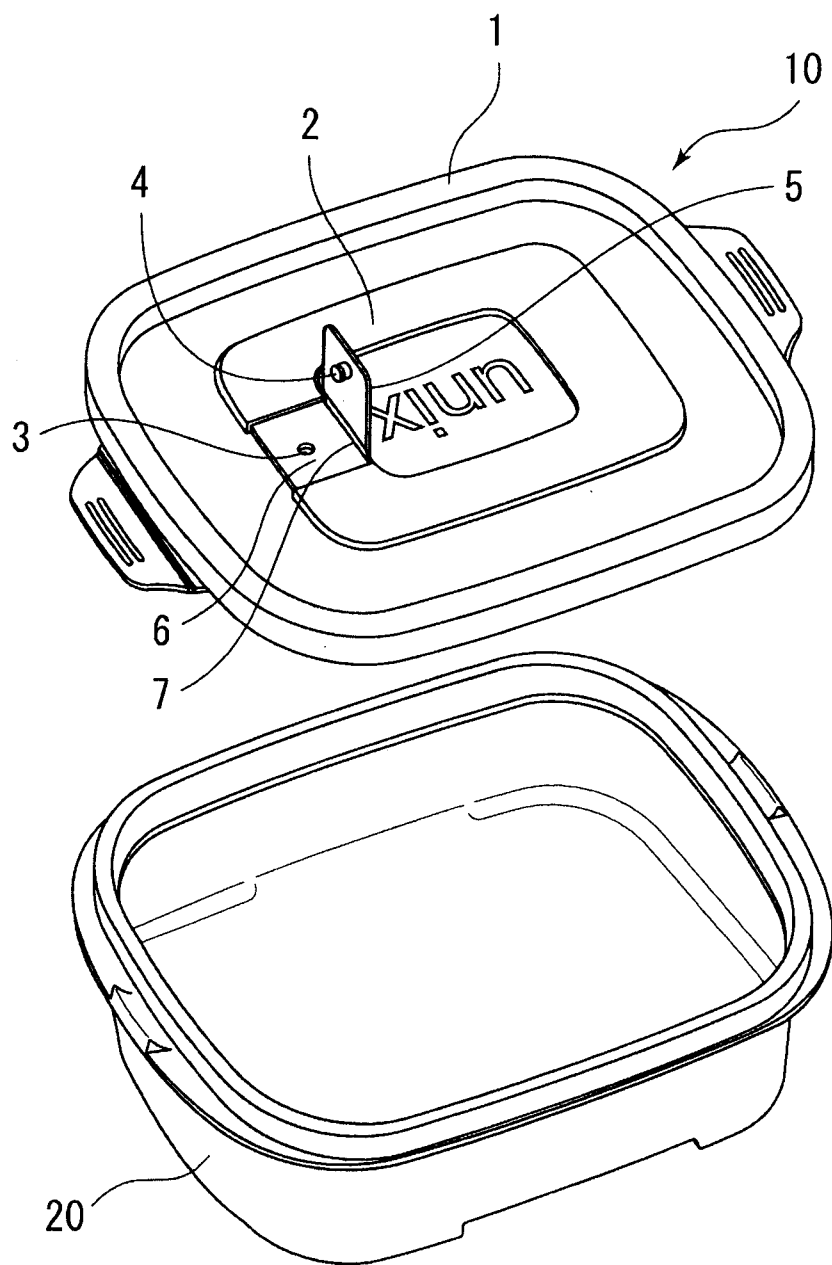


図2

イ号 容器

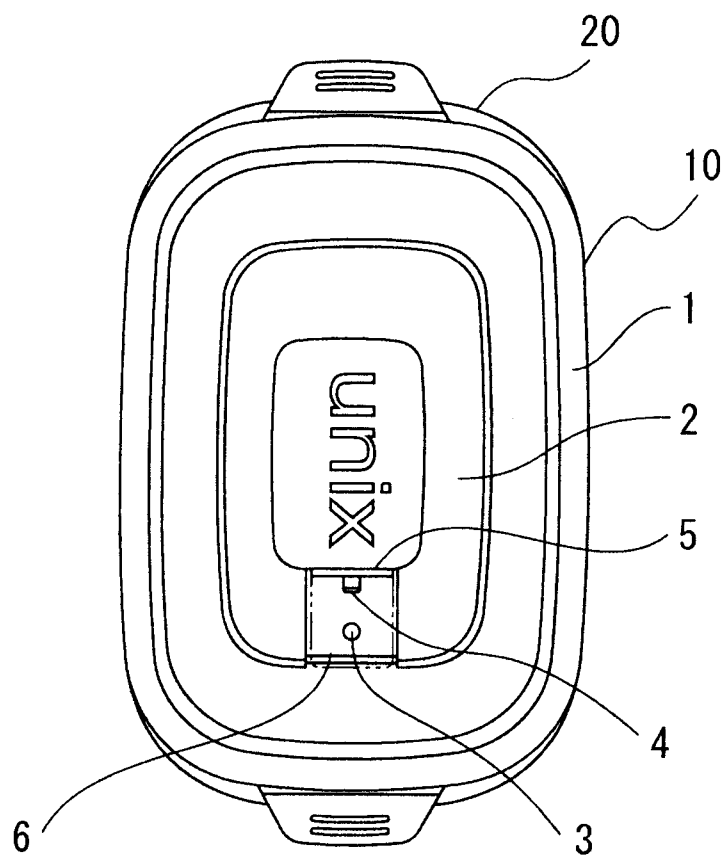


図3

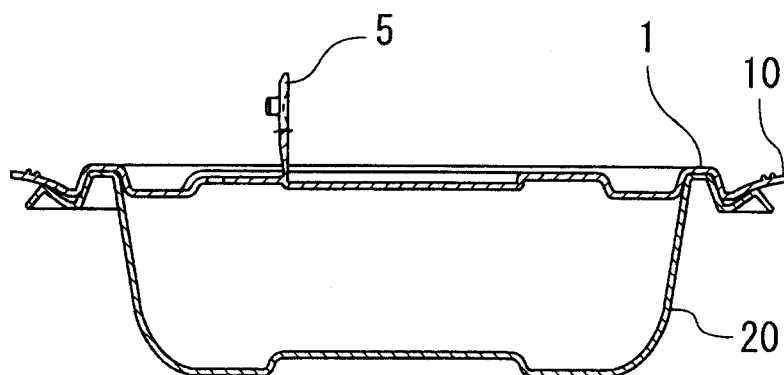


図4

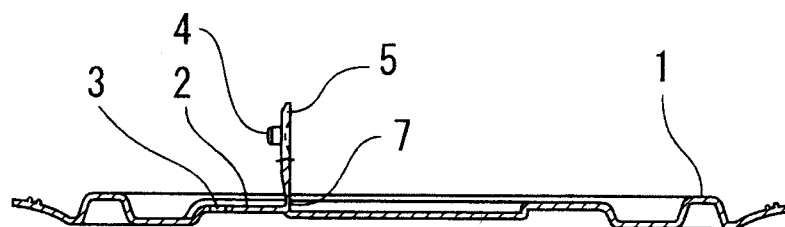
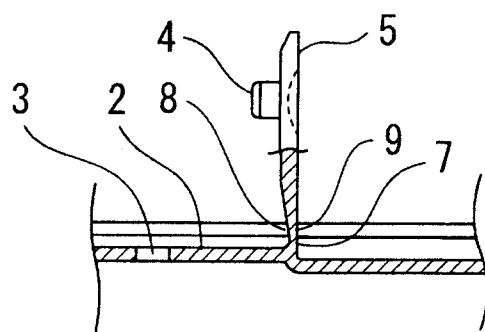
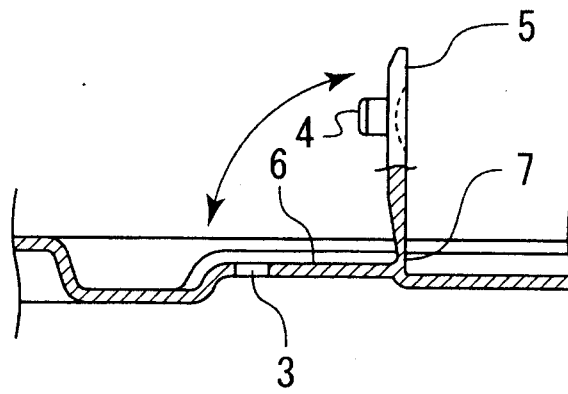


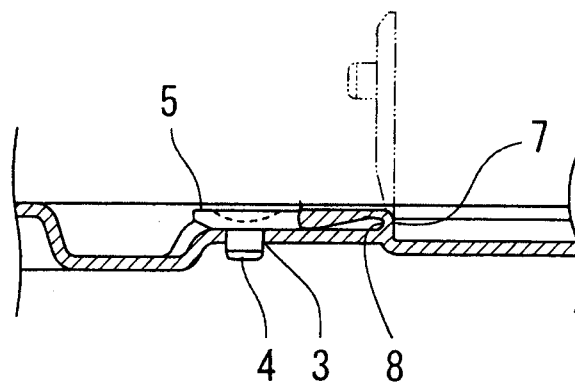
図5

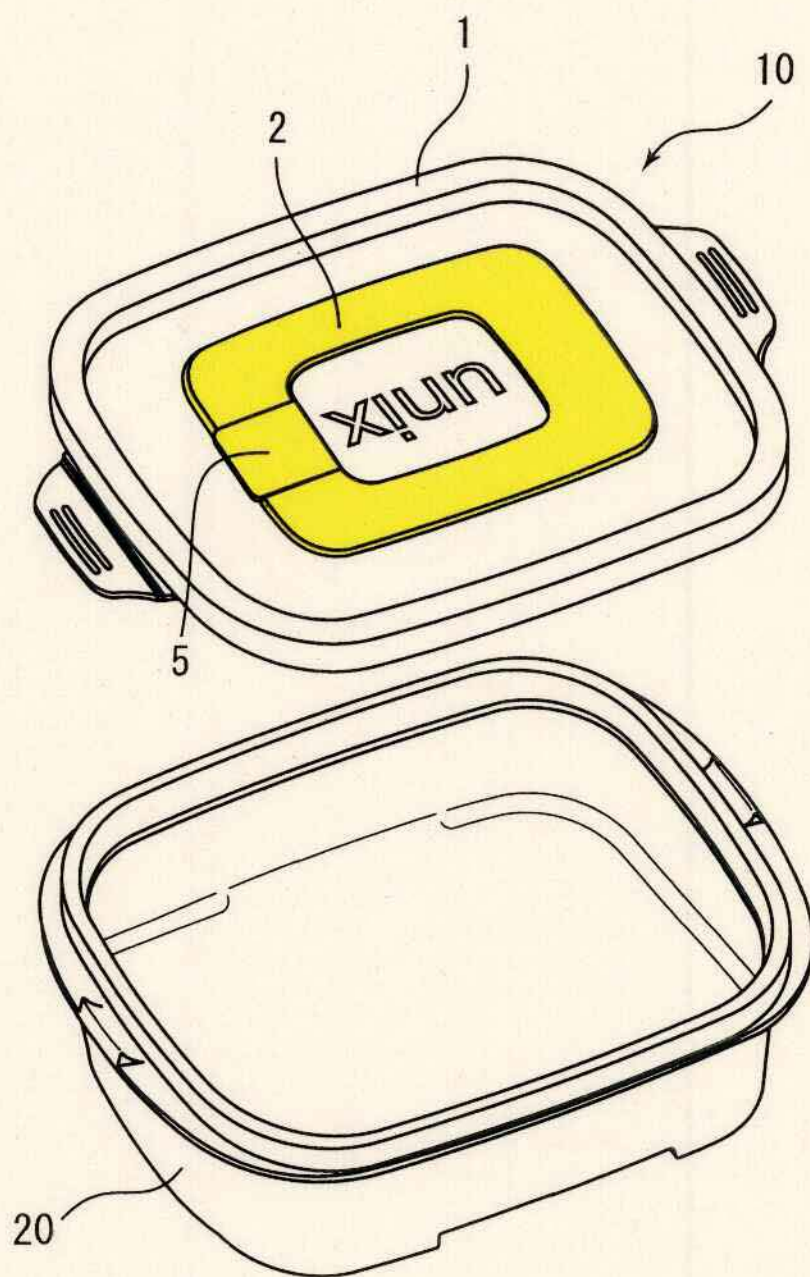


(a)



(b)





物件目録 2 - 1 (口号蓋体)

(1) 被告製品に係る品番を「4 2 6 4」とする容器に使用されている蓋体

(2) 口号蓋体の構成

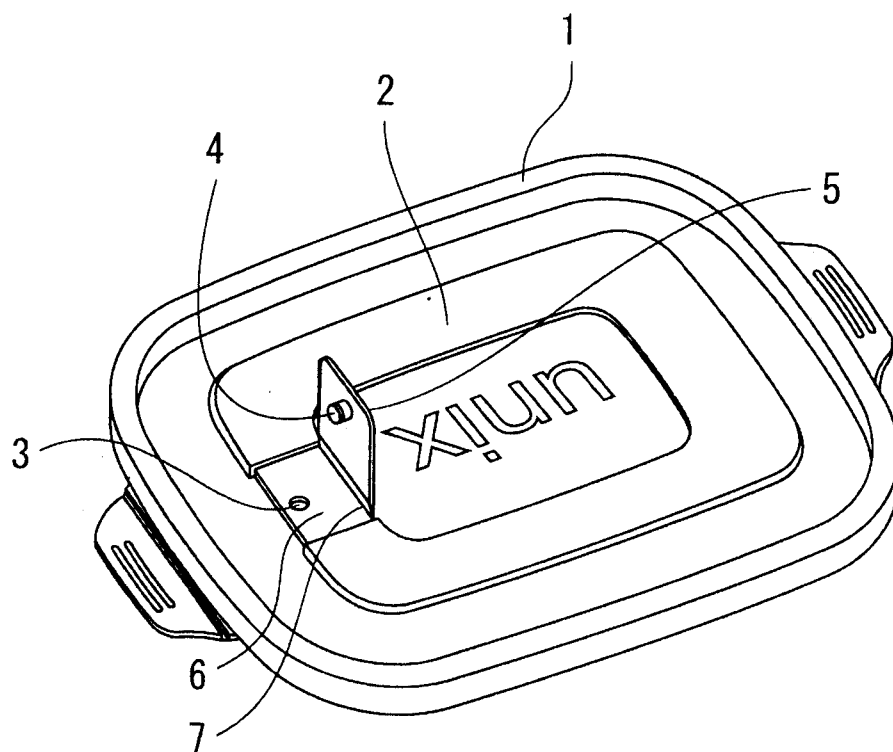
- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略四角形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部 (1) は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域 (2) を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴 (3) と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部 (4) を備えるフラップ部 (5) と、当該フラップ部を収容する凹領域 (6) が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部 (7) を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝 (8) が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面 (9) は平坦な面をなす
- i. 蓋体

(3) 口号蓋体の寸法

縦約 1 1 3 mm、横約 1 7 9 mm (持ち手部分の長さを含む) の平面視略長方形である。

(4) 図面の説明

- ・ 図 1 は口号蓋体の斜視図である。
- ・ 図 2 は口号蓋体の平面図である。
- ・ 図 3 は口号蓋体の断面図である。
- ・ 図 4 は口号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 5 は口号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。



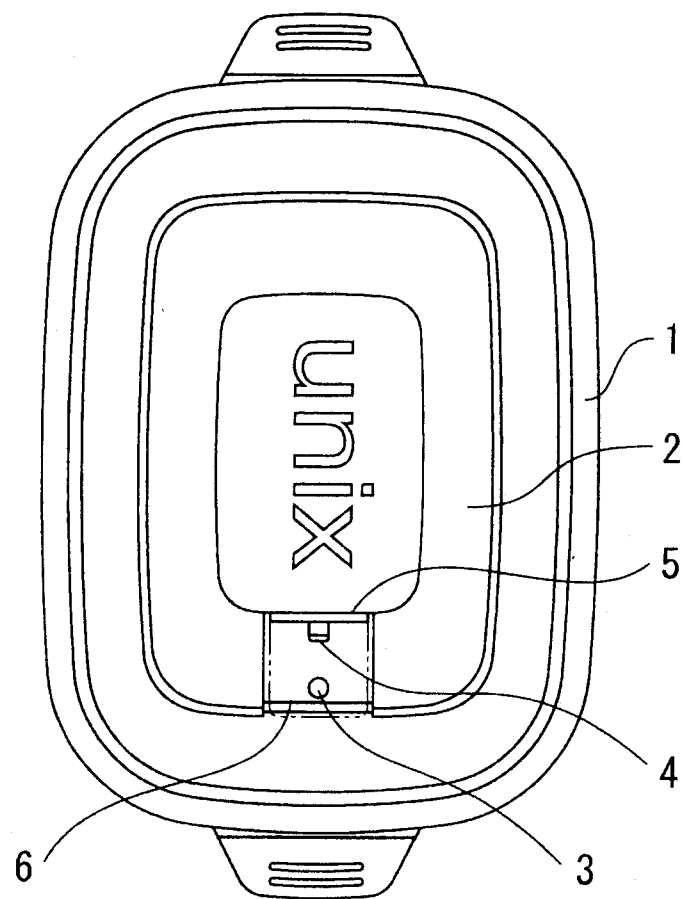


图3

口号 盖体

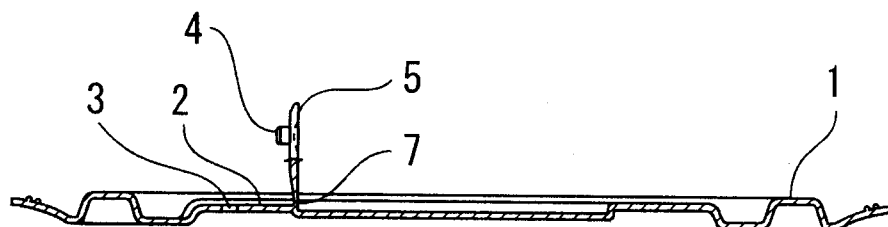
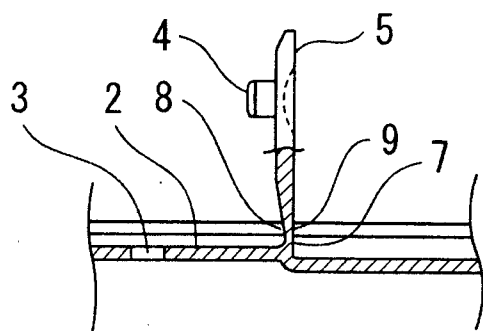
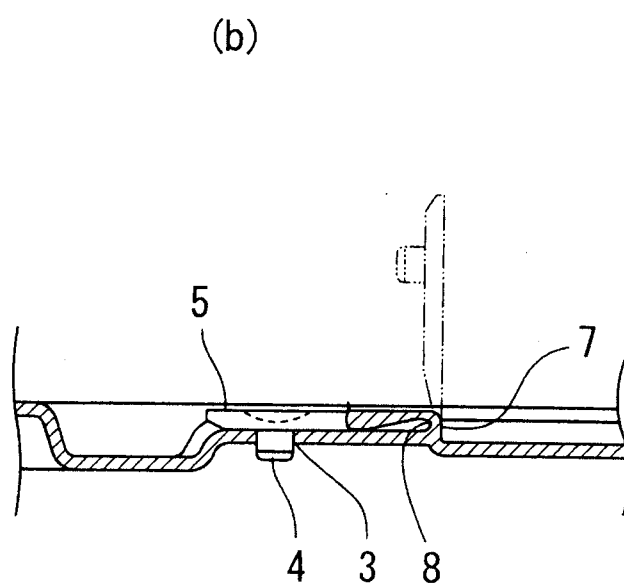
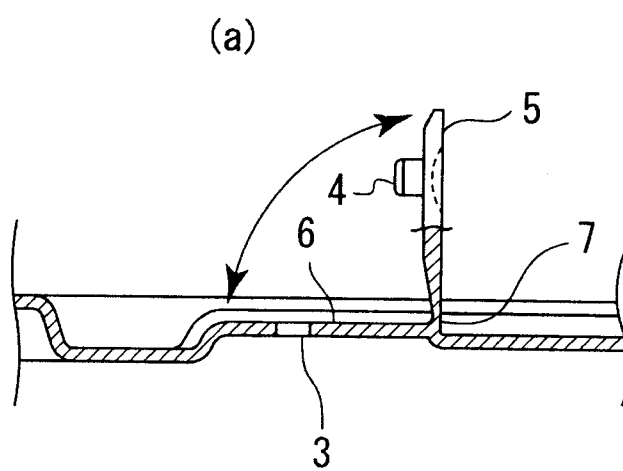
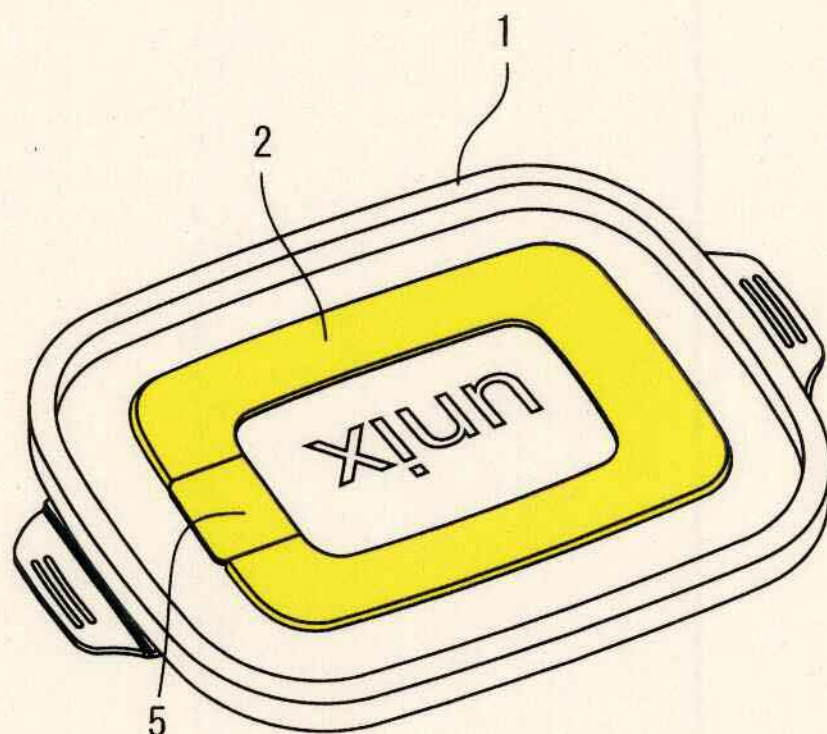


图4







物件目録 2－2（口号容器）

（１）被告製品に係る品番を「４２６４」とする容器

（２）口号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部（２０）と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略四角形の蓋体（１０）からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 容器

（３）口号容器の寸法・容量

蓋体は、縦約１１３mm、横約１７９mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略長方形である。容量は４８０mlである。

（４）図面の説明

- ・図１は口号容器の斜視図である。
- ・図２は口号容器の平面図である。
- ・図３は口号容器の断面図である。
- ・図４は口号容器の蓋体の断面図である。
- ・図５は口号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図６は口号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

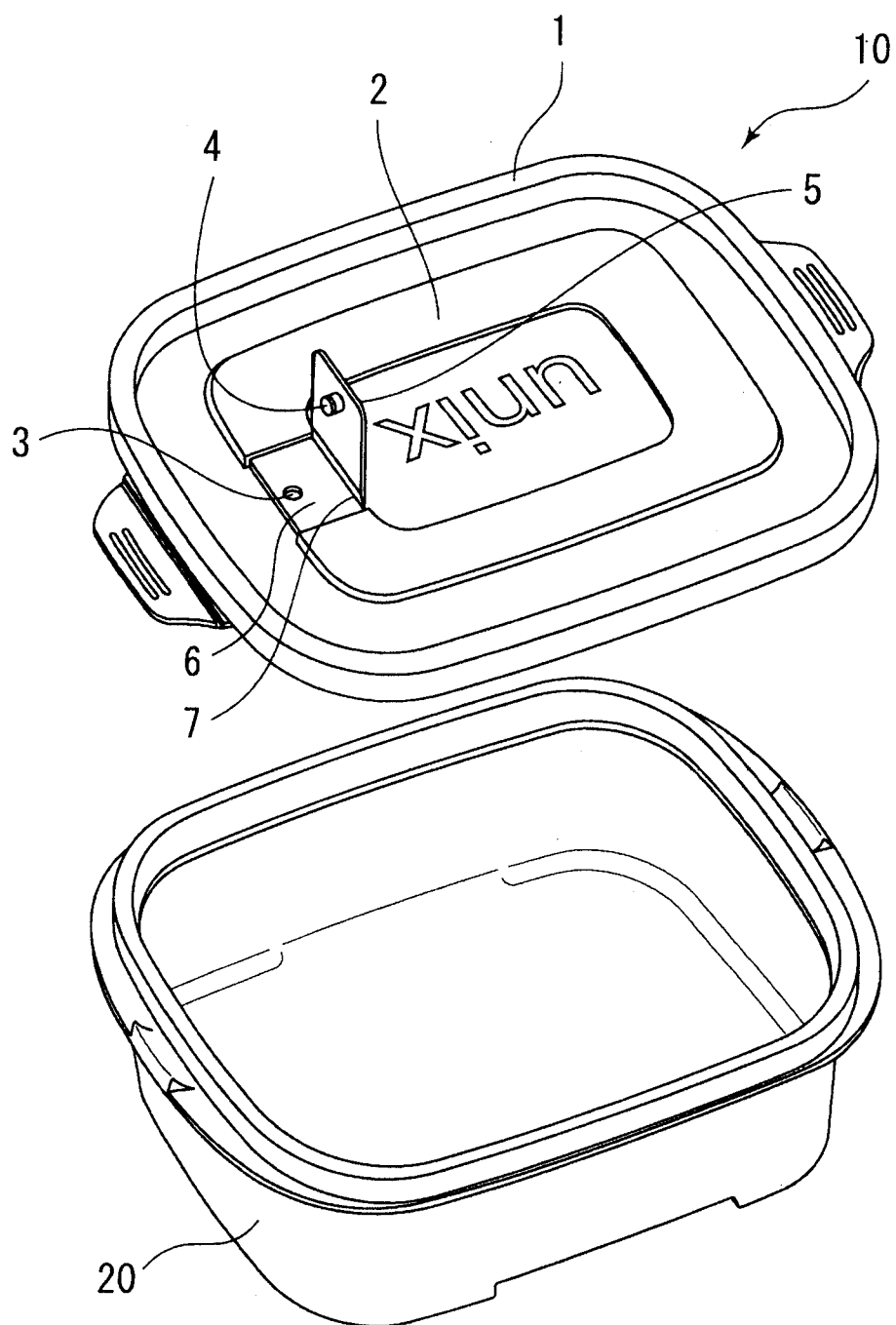


图2

口号 容器

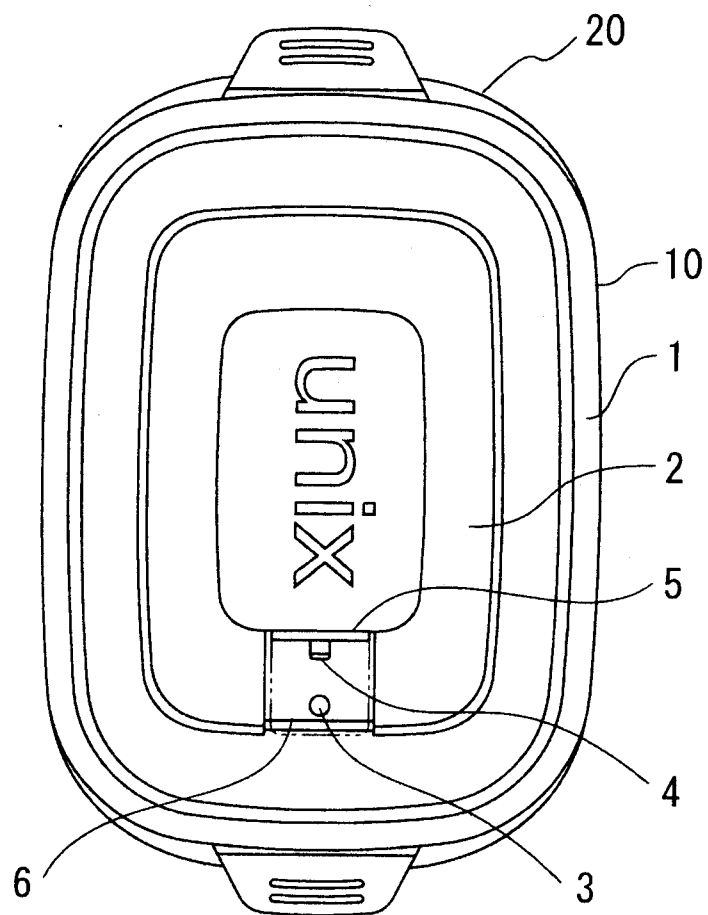


图3

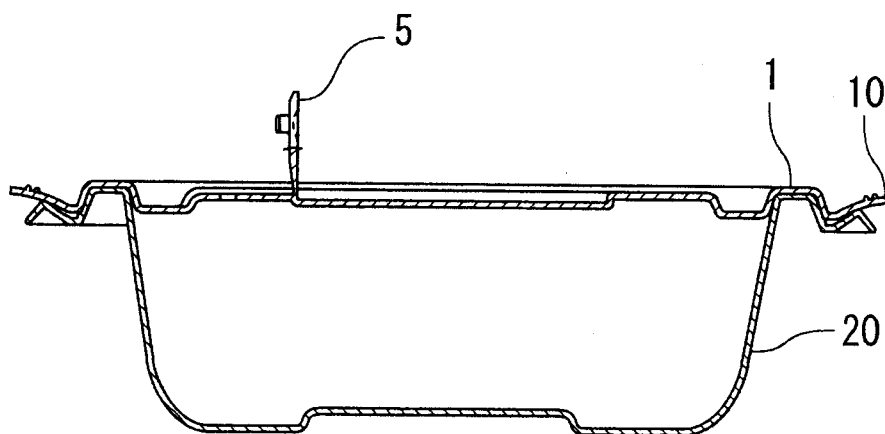


图4

口号 容器

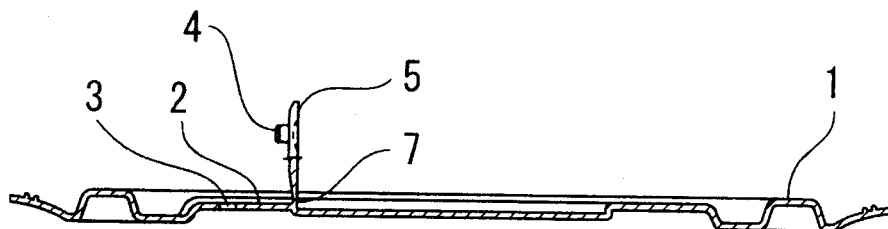
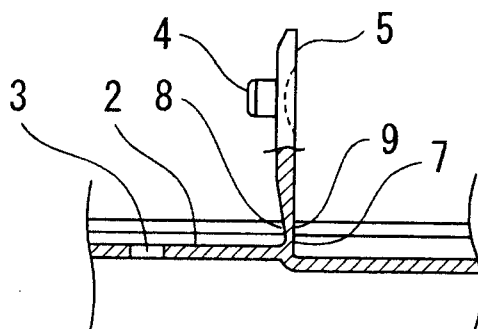
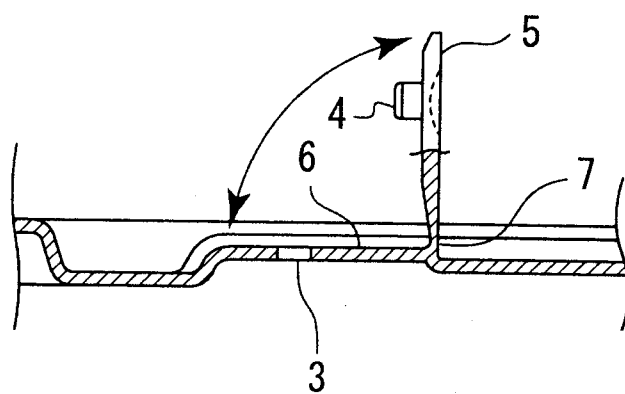


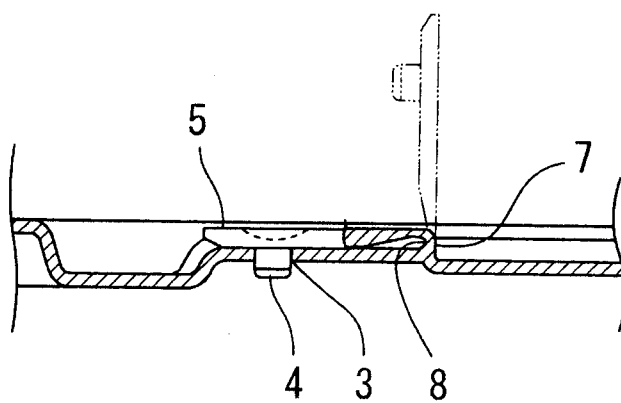
图5

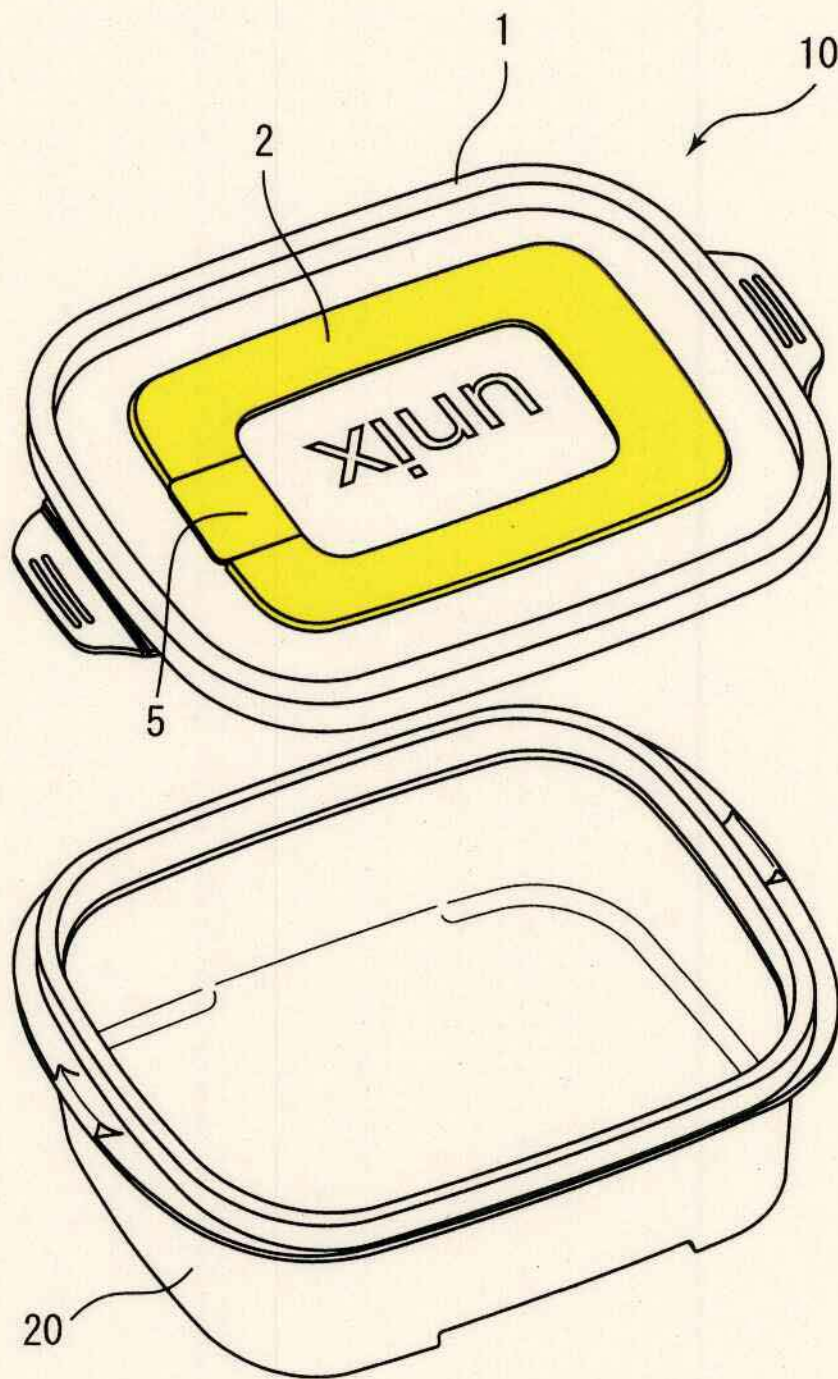


(a)



(b)





物件目録 3－1（ハ号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６５」とする容器に使用されている蓋体

（２）ハ号蓋体の構成

- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略四角形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）ハ号蓋体の寸法

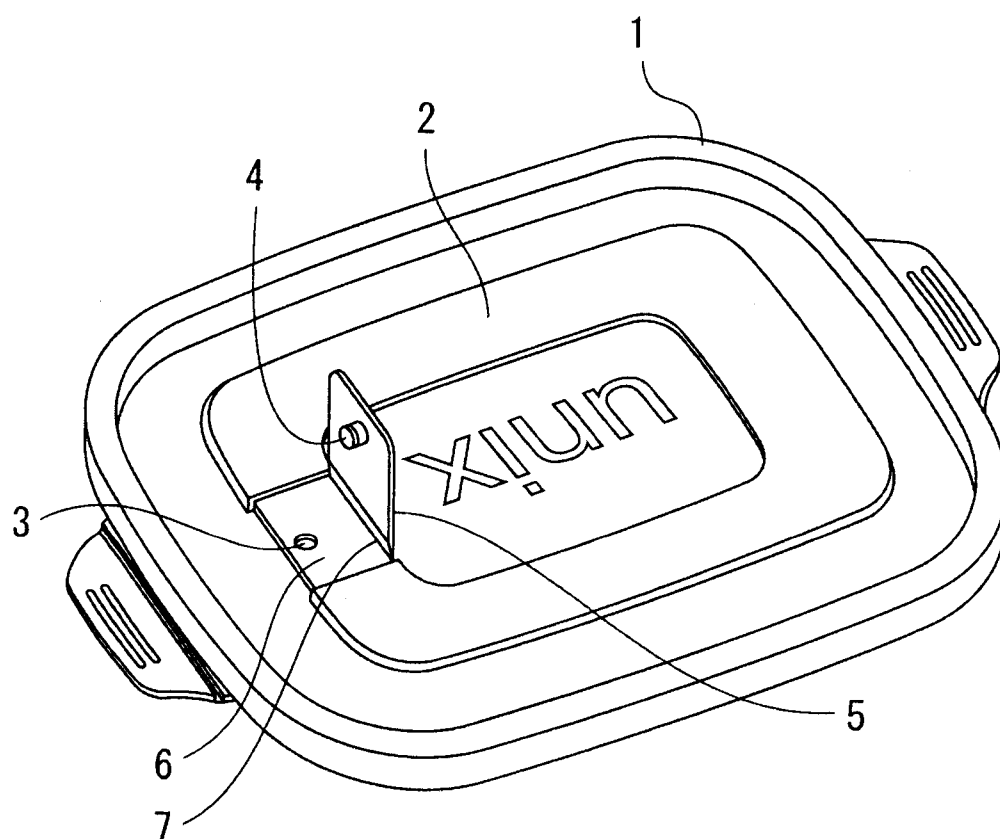
縦約１２４mm、横約１９７mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略長方形である。

（４）図面の説明

- ・図１はハ号蓋体の斜視図である。
- ・図２はハ号蓋体の平面図である。
- ・図３はハ号蓋体の断面図である。
- ・図４はハ号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図５はハ号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

図1

八号 蓋体



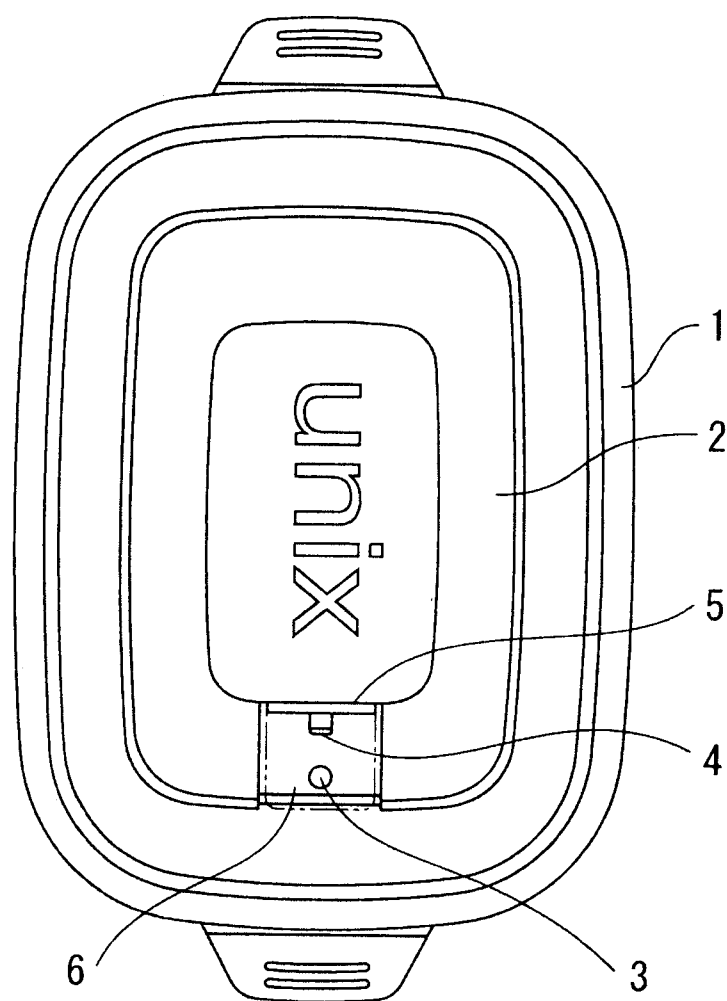


図3

八号 蓋体

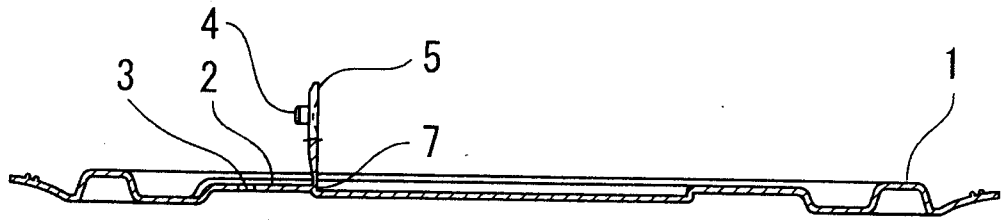
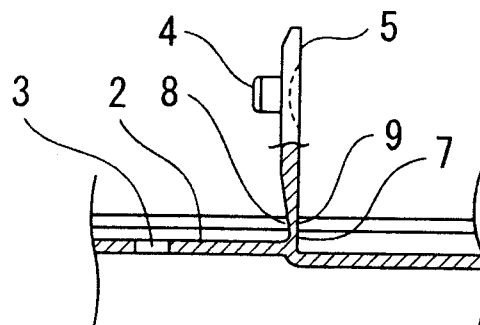
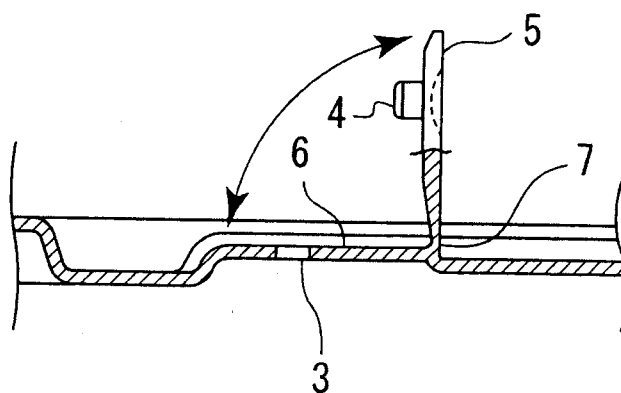


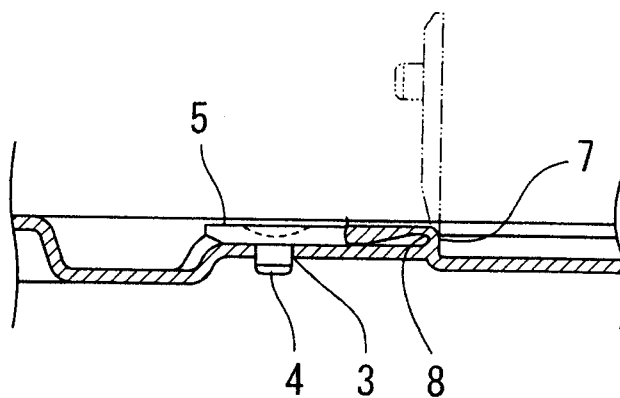
図4

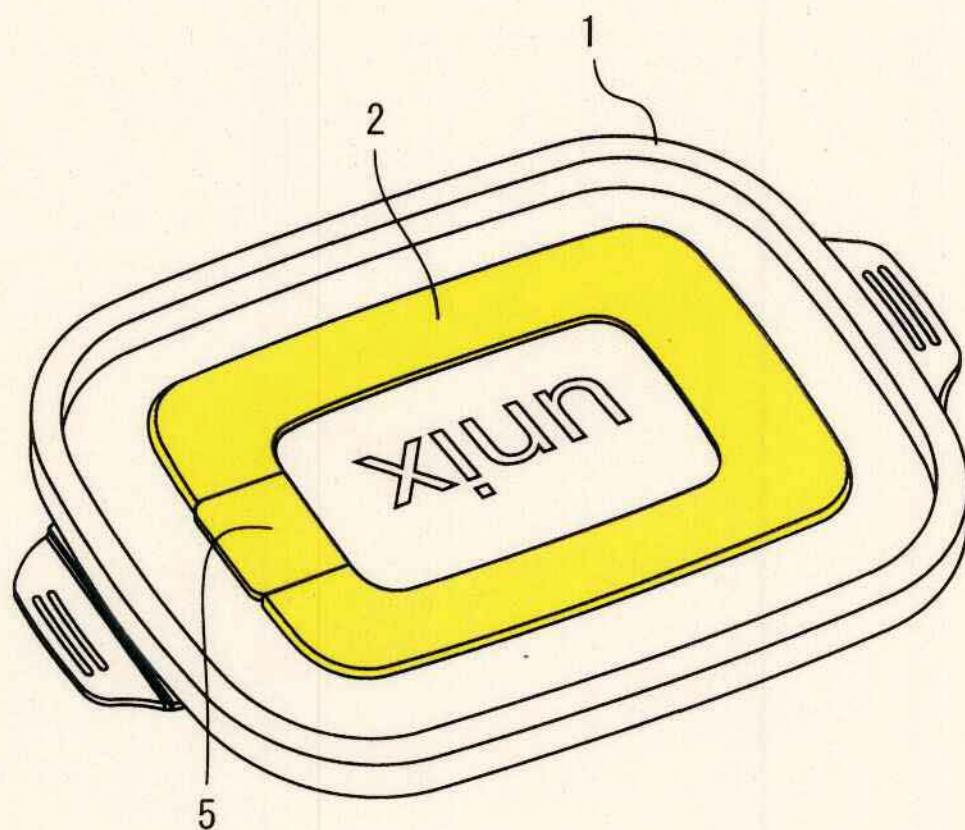


(a)



(b)





物件目録 3 - 2 (ハ号容器)

(1) 被告製品に係る品番を「4 2 6 5」とする容器

(2) ハ号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部(20)と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略四角形の蓋体(10)からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部(1)は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域(2)を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴(3)と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部(4)を備えるフラップ部(5)と、当該フラップ部を収容する凹領域(6)が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部(7)を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝(8)が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面(9)は平坦な面をなす
- i. 容器

(3) ハ号容器の寸法・容量

蓋体は、縦約124mm、横約197mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。容量は670mlである。

(4) 図面の説明

- ・図1はハ号容器の斜視図である。
- ・図2はハ号容器の平面図である。
- ・図3はハ号容器の断面図である。
- ・図4はハ号容器の蓋体の断面図である。
- ・図5はハ号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図6はハ号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

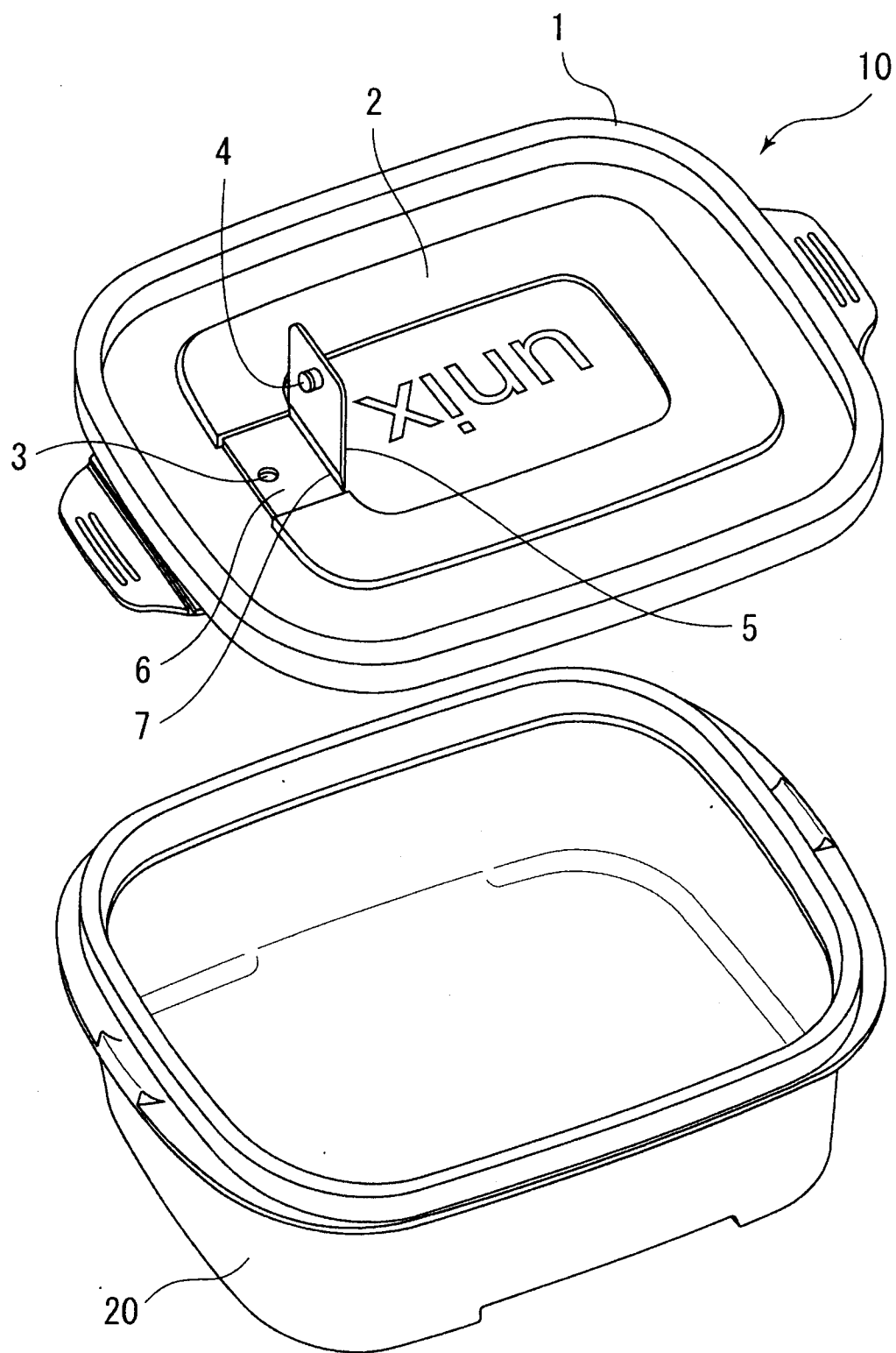


図2

ハ号 容器

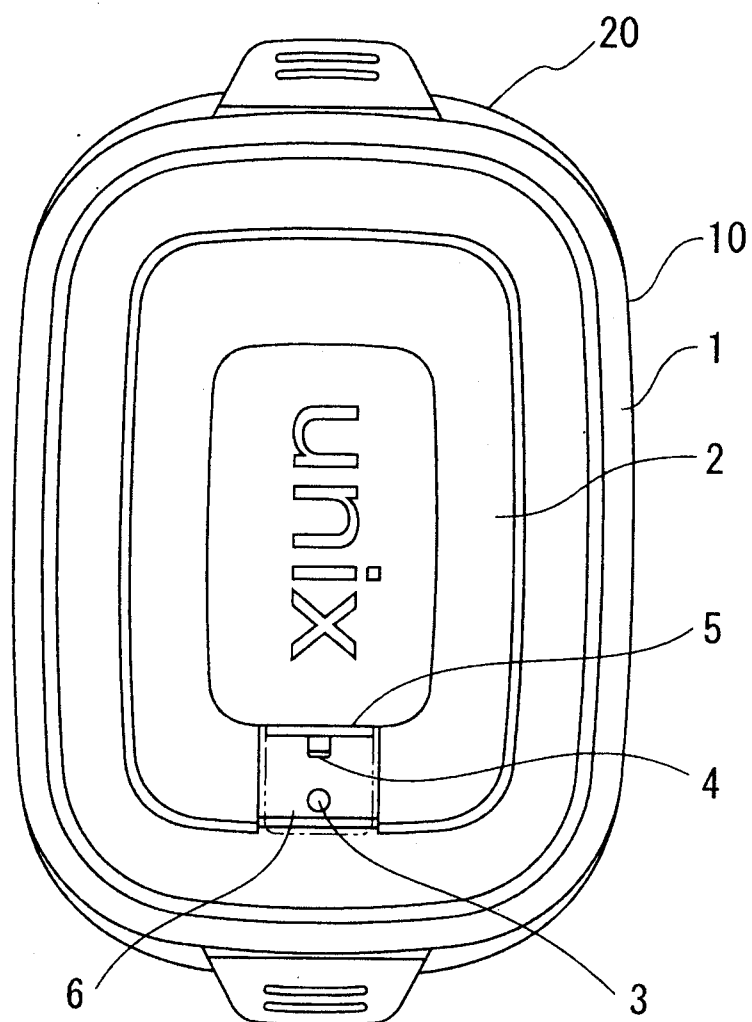


図3

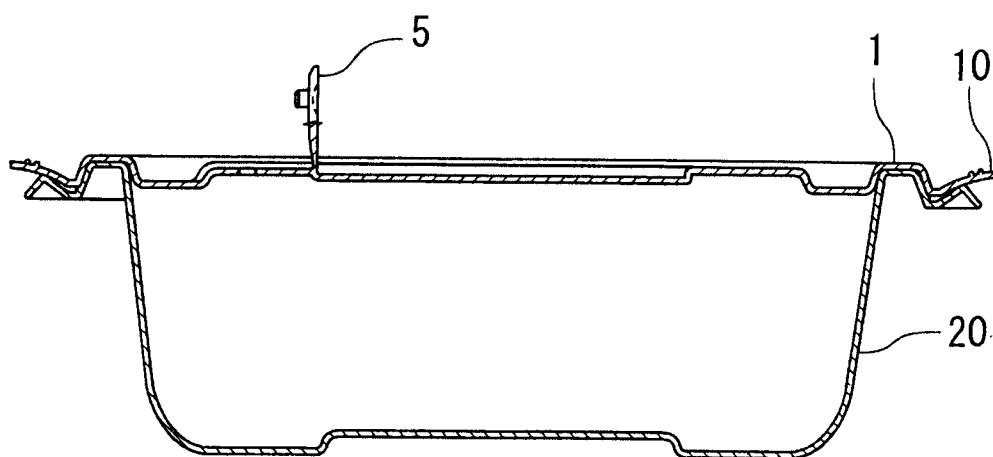


図4

八号 容器

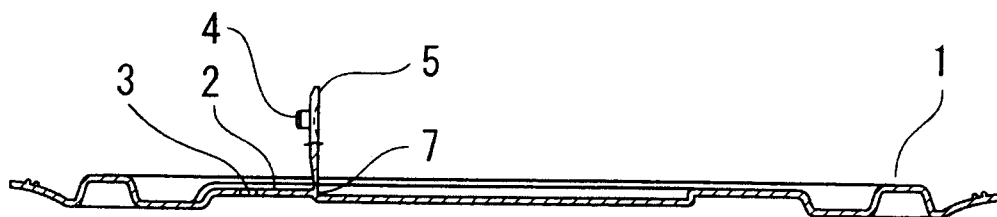
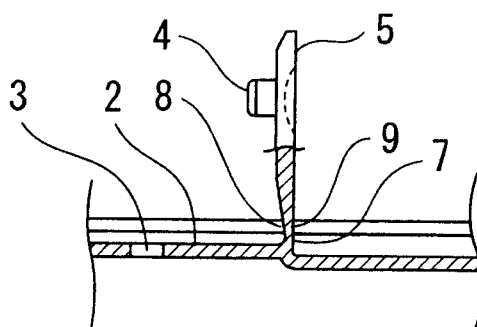
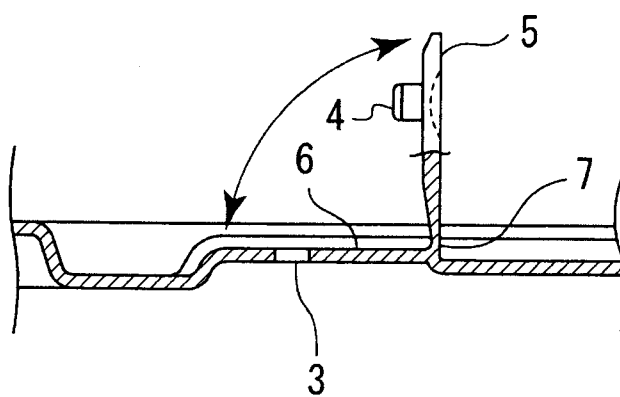


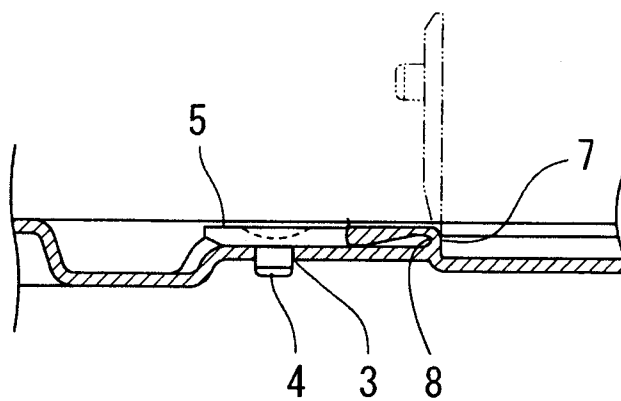
図5



(a)



(b)





物件目録 4－1（二号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６６」とする容器に使用されている蓋体

（２）二号蓋体の構成

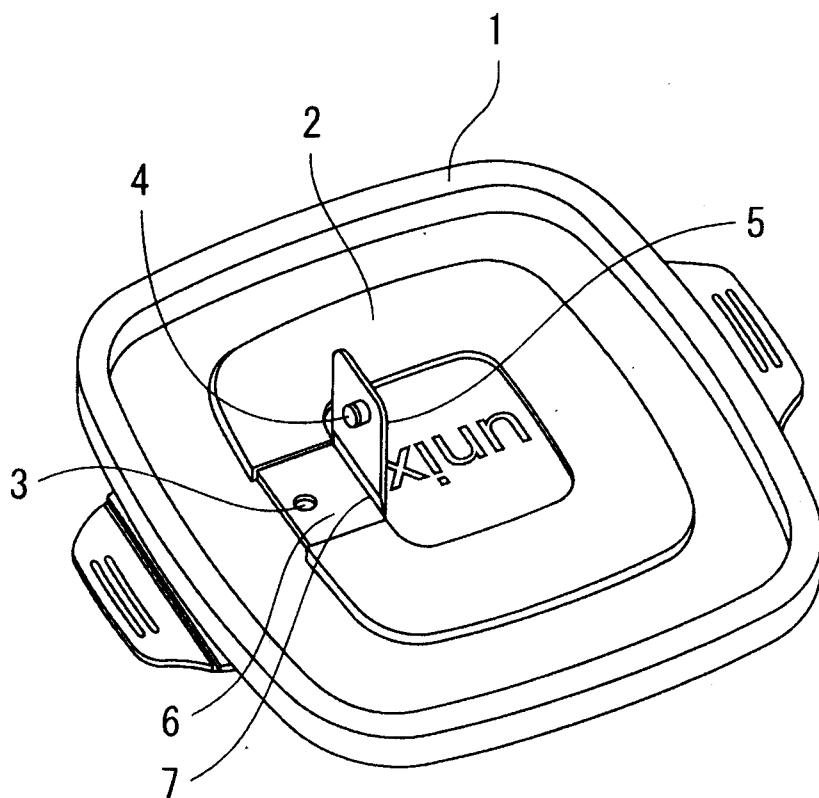
- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略四角形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）二号蓋体の寸法

縦約 120 mm、横約 146 mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略正方形である。

（４）図面の説明

- ・ 図 1 は二号蓋体の斜視図である。
- ・ 図 2 は二号蓋体の平面図である。
- ・ 図 3 は二号蓋体の断面図である。
- ・ 図 4 は二号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 5 は二号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。



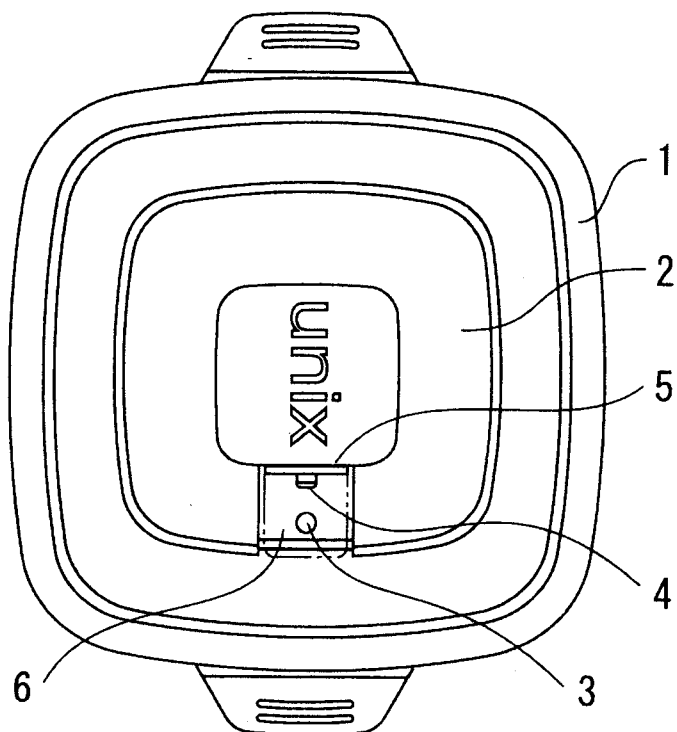


图3

二号 盖体

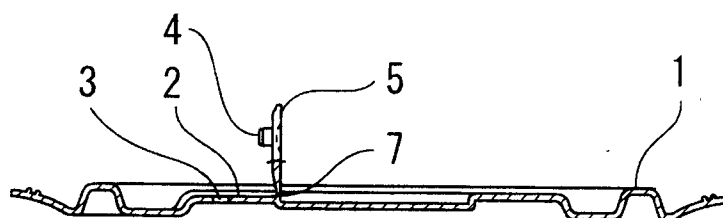
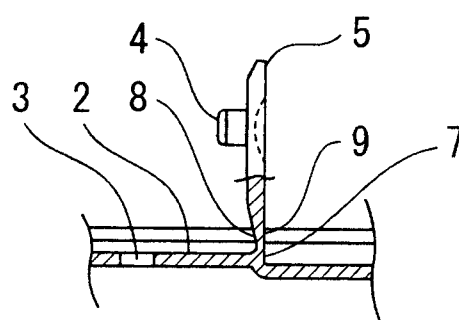
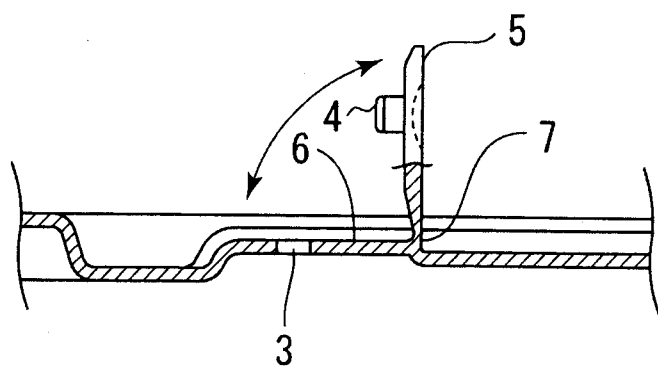


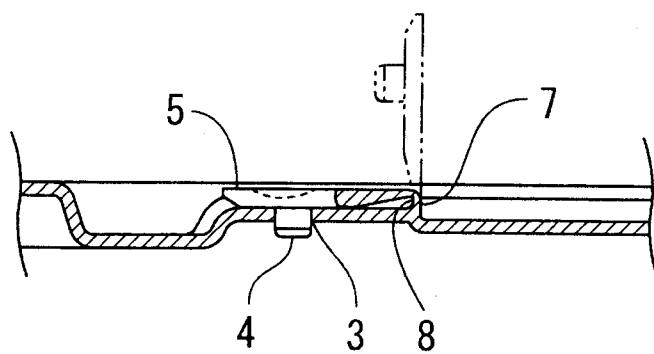
图4

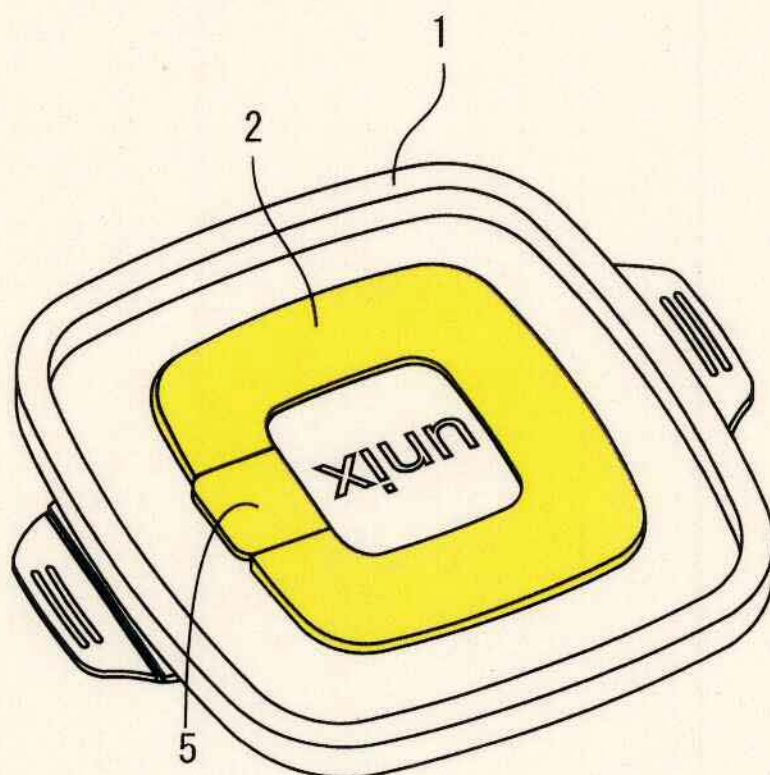


(a)



(b)





物件目録４－２（二号容器）

（１）被告製品に係る品番を「４２６６」とする容器

（２）二号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部（２０）と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略四角形の蓋体（１０）からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 容器

（３）二号容器の寸法・容量

蓋体は、縦約１２０mm、横約１４６mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略正方形である。容量は３９０mlである。

（４）図面の説明

- ・図１は二号容器の斜視図である。
- ・図２は二号容器の平面図である。
- ・図３は二号容器の断面図である。
- ・図４は二号容器の蓋体の断面図である。
- ・図５は二号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図６は二号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

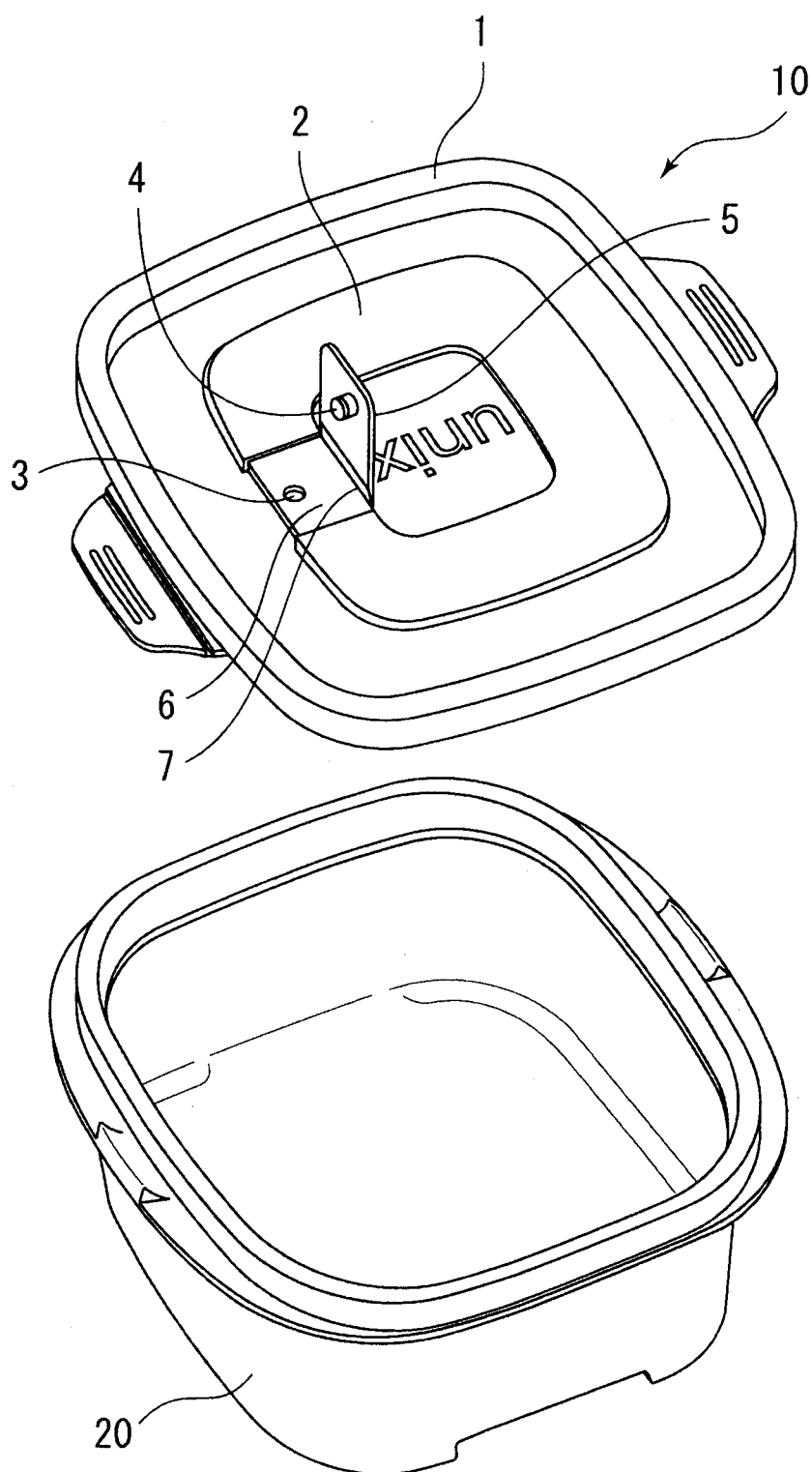


图2

二号 容器

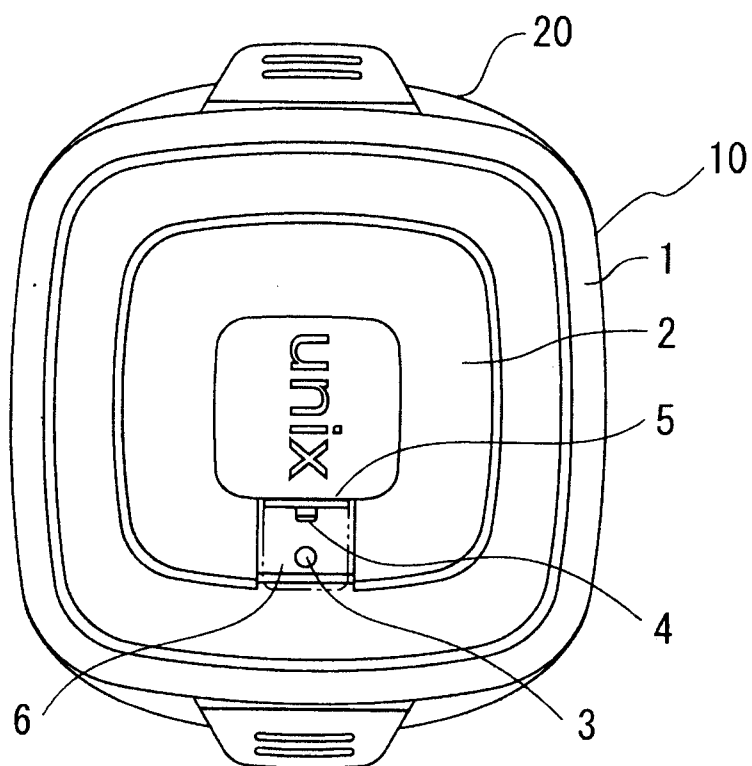


图3

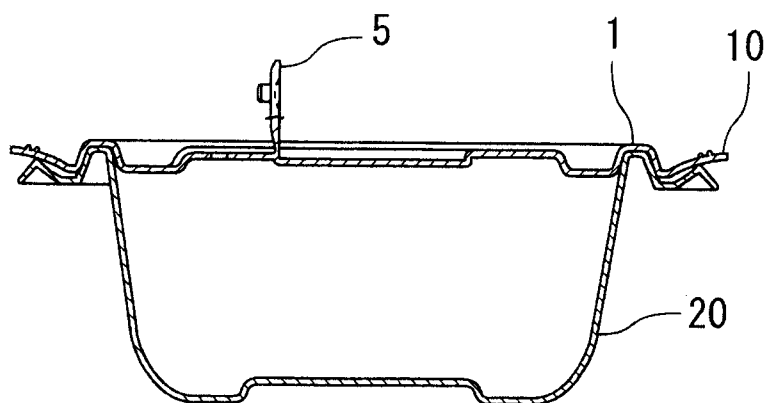


图4

二号 容器

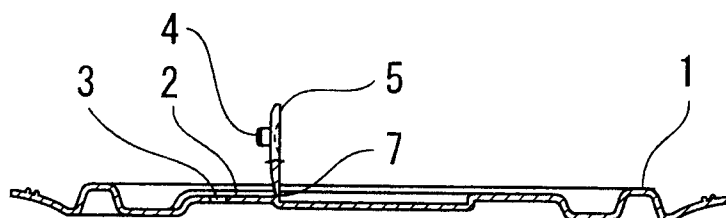
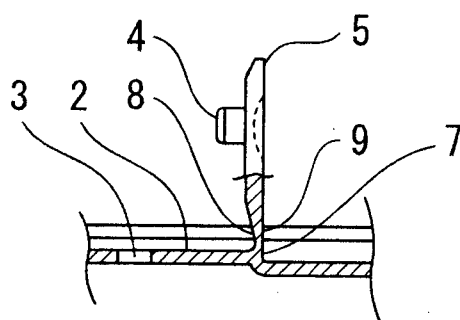
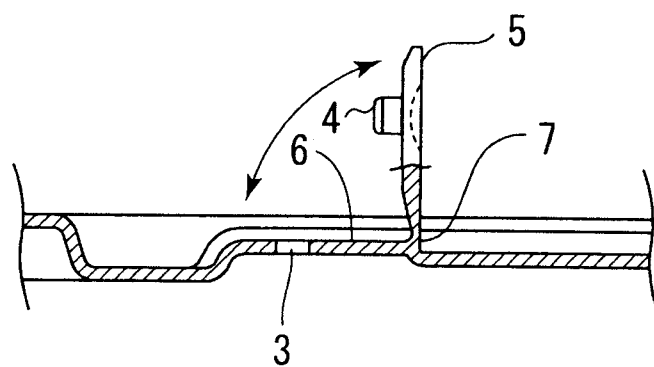


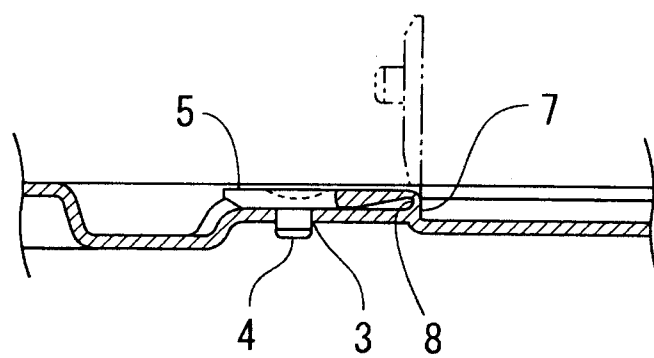
图5

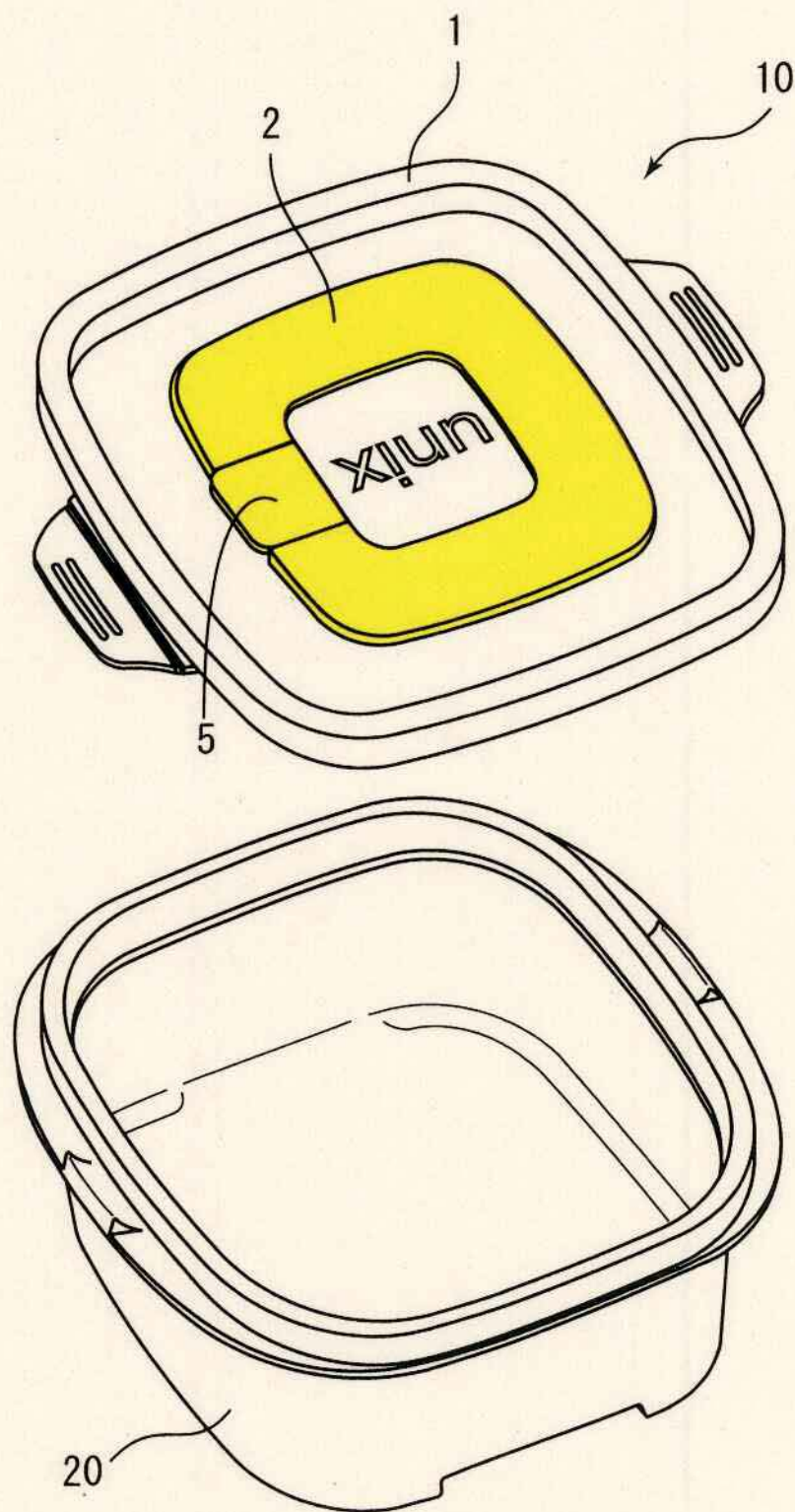


(a)



(b)





物件目録 5－1（ホ号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６７」とする容器に使用されている蓋体

（２）ホ号蓋体の構成

- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略四角形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）ホ号蓋体の寸法

縦約１４４mm、横約１７１mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略正方形である。

（４）図面の説明

- ・図１はホ号蓋体の斜視図である。
- ・図２はホ号蓋体の平面図である。
- ・図３はホ号蓋体の断面図である。
- ・図４はホ号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図５はホ号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

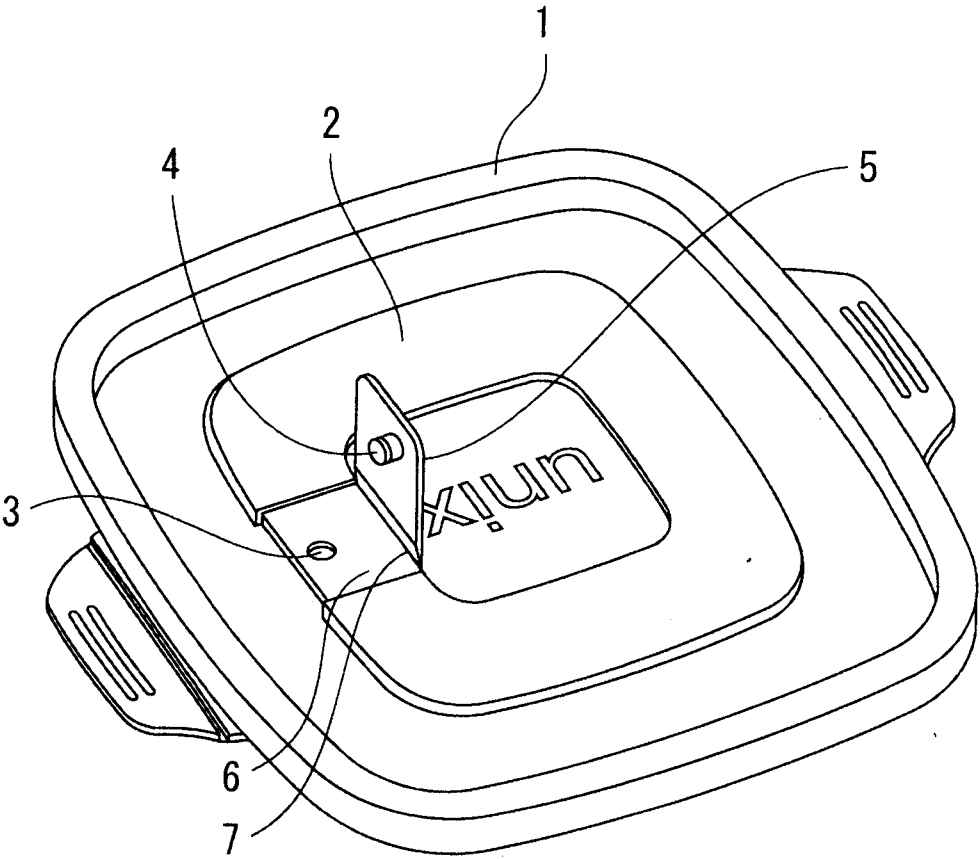


图2

木号 盖体

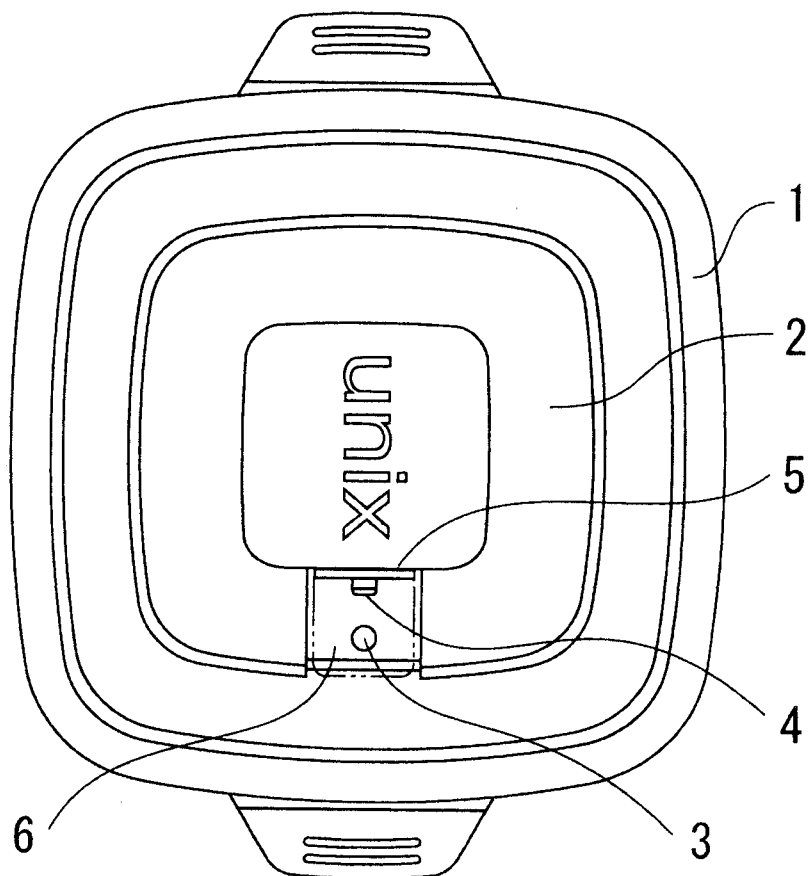


図3

木号 蓋体

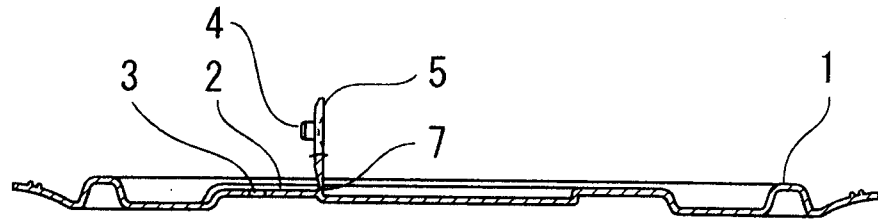
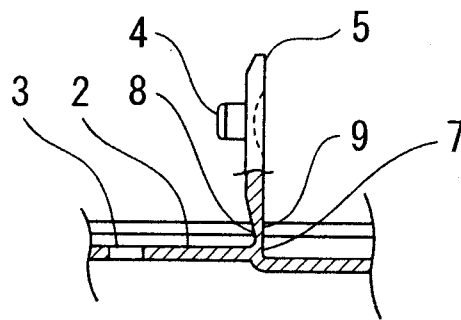
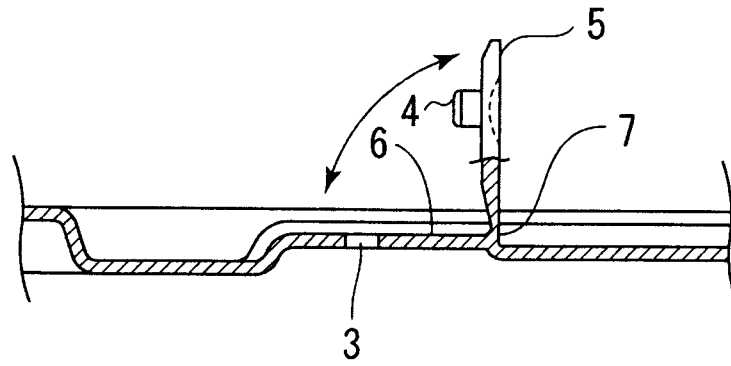


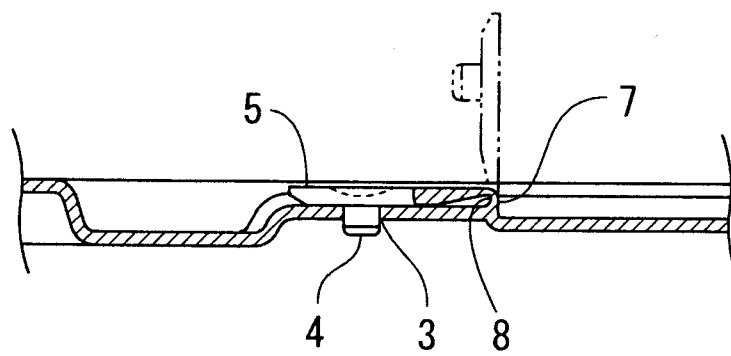
図4

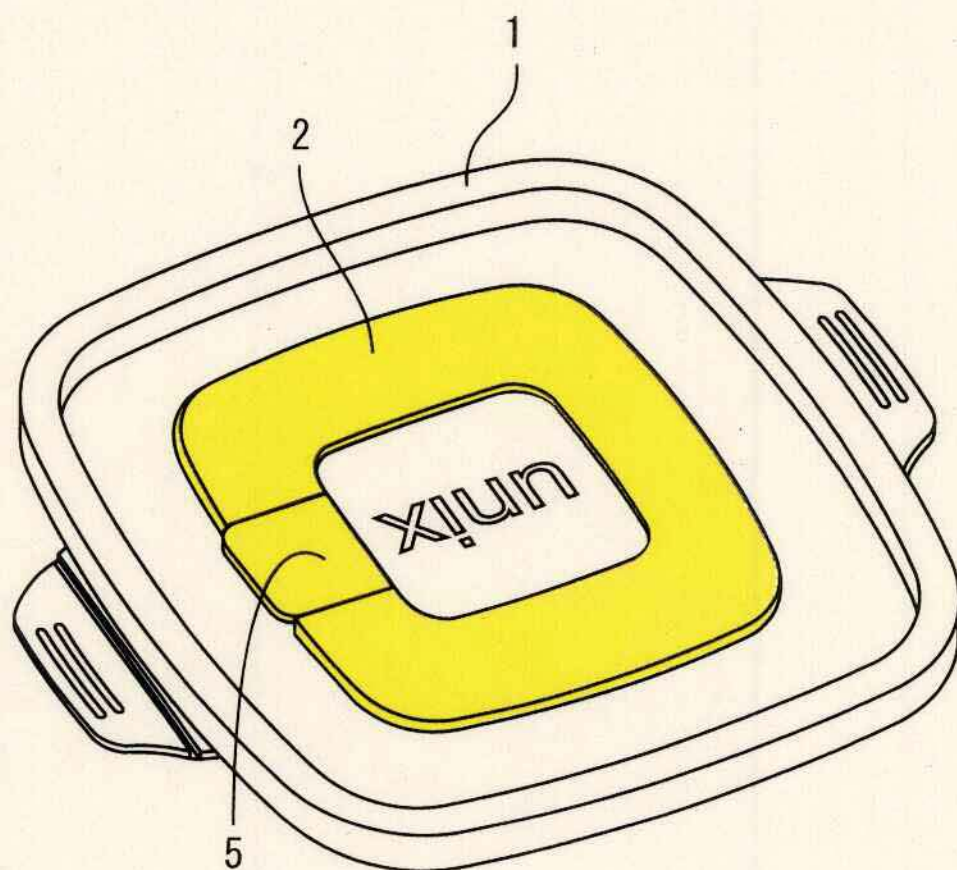


(a)



(b)





物件目録 5－2（ホ号容器）

（１）被告製品に係る品番を「４２６７」とする容器

（２）ホ号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部（２０）と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略四角形の蓋体（１０）からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 容器

（３）ホ号容器の寸法・容量

蓋体は、縦約１４４mm、横約１７１mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略正方形である。容量は６２０mlである。

（４）図面の説明

- ・図１はホ号容器の斜視図である。
- ・図２はホ号容器の平面図である。
- ・図３はホ号容器の断面図である。
- ・図４はホ号容器の蓋体の断面図である。
- ・図５はホ号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図６はホ号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

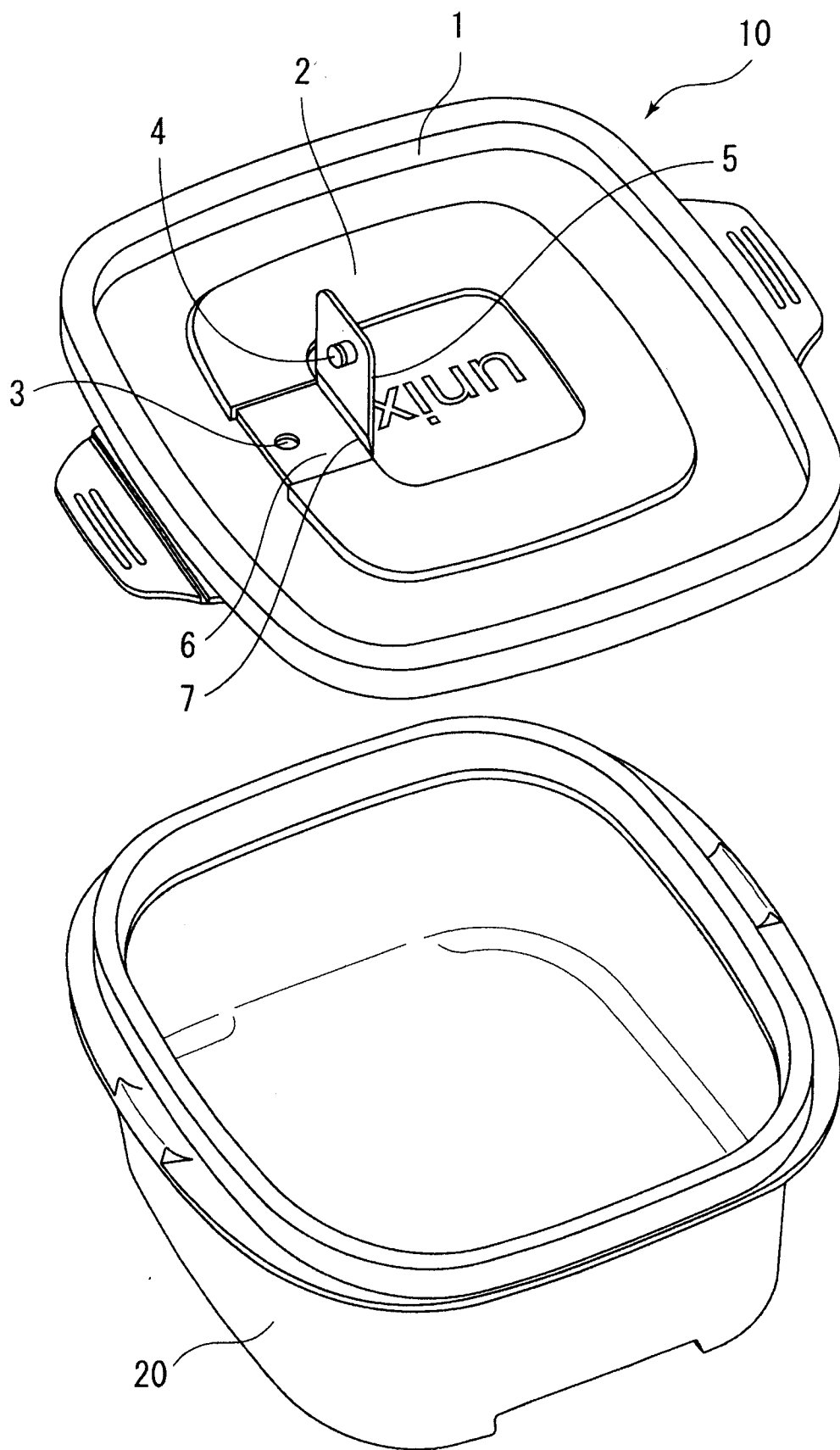


图2

木号 容器

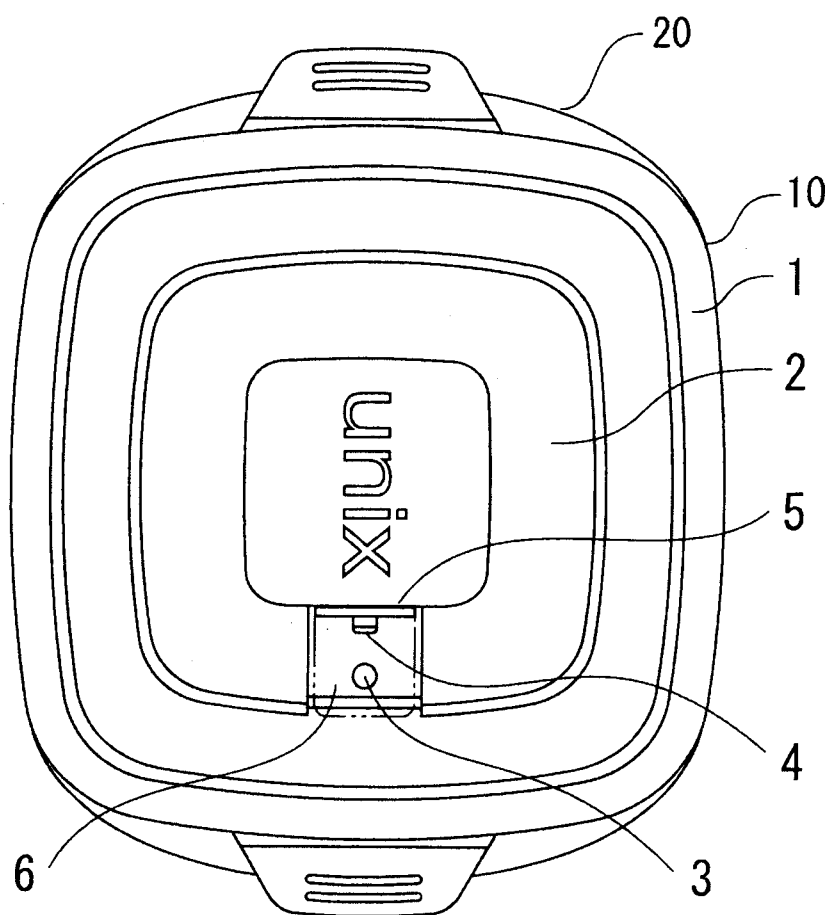


图3

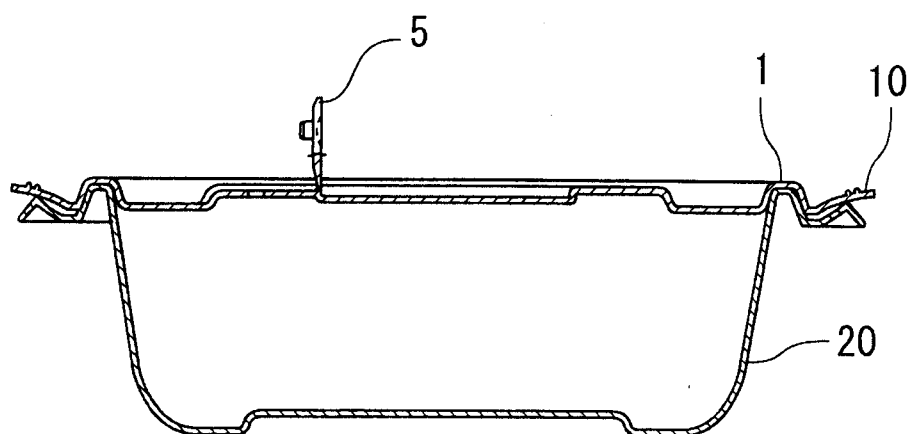


図4

木号 容器

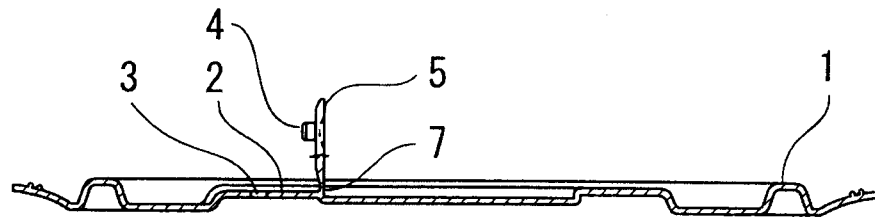


図5

